

# DAIDO CAMPUS

DAIDO INSTITUTE OF TECHNOLOGY

2003.4.25 No.44

編集・発行 大同工業大学社会交流エクステンションセンター

〒457-8530 名古屋市南区滝春町10-3

TEL 052-612-6209

## No.44



初登校する新入生(4月4日撮影)

## CONTENTS

### 井上茂樹就職部長が語る

### 平成15年度 就職戦線に勝ち抜くために

韓国東亜大学校との学术交流提携

ア-ヘン工科大学と第4期継続提携調印

平成15年度 入学式・学長告辞

#### TOPICS

学位記授与式 学長賞・三好賞他

新任教員プロフィール

退任教員からのメッセージ

キャンパスライフ クラブ活動報告

ゴビ-の散歩道 近藤芳孝教授

#### アンテナ

学習支援センター誕生

第2回におい研究交流会

博士後期課程から2名博士誕生

富田高校生が体験学習

#### INFORMATION

季刊

大同工大キャンパス



春季号 2003

APRIL

# 4

### 平成15年度 就職戦線に勝ち抜くために



長引く就職難と大卒の希少価値がなくなり、一流大学を出ても4割は就職できない?と云われています。この程、主婦の友社から発行された「わが娘を就職で泣かせないための大学選び」のなかで、大学就職率ベスト20(平成13年度)に本学は第5位にランクインしました。その他の愛知県の大学では、豊橋技術科学大学(国立)第7位以外は入っていませんでした。

平成14年度就職戦線は近來に無い最も厳しい社会情勢のなかで、本学はどのように戦ったのか。平成15年度対策は万全なのか井上茂樹就職指導部長に伺いました。

平成14年度は、特に厳しい就職戦線であったと思いますが、例年と比べて求人、企業規模はどんな状況でしたか。

部長 昨年度(平成14年度)は一昨年のアメリカでの同時多発テロの影響もあって、企業の経営環境が厳しさを増し、求人企業数は前年比6%減の2400社弱でした。この内約半分弱の1100社が学科不問の求人で、年々学科不問の求人が増える傾向です。これは求人情報がインターネットで開示できるようになり、特に規模が大きい企業を中心に「リクナビ」、「毎日ナビ」等の就職サイト、企業自身のホームページ等で求人情報を公開することで大学に直接求人依頼をしなくなっていること、本学が従来の紙ベースに加えインターネットでも求人受付をするようにしたことが、この傾向に大きく関係していると思われます。つまり大手企業は個々の大学に求人票を出さなくなって減ってきている一方で、これまで大学に求人票を出せなかったサービス業を中心とする中小規模の企業がインターネットを通じて容易に各大学に求人を出せるようになってきたことがその原因と思われます。因みに平成14年度の求人企業数は、紙ベースで約1400社、ネット経由が約1000社でした。

このように大学で受け付ける求人企業数が減る傾向ですが、その分はインターネット化しているだけで、実体としては求人企業数は若干ながら増えていると考えています。

企業規模では資本金50億円以上が113社、5億～50億円 319社、1億～5億円が481社で、この内上場企業は256社でした。

#### 建設不況で各企業は人員削減

一般に建設・IT関係企業は不況業種と云われ、求人数は非常に少なくなるのではと危惧されていましたが、結果として本学の建設工学科の場合はどうでしたか。

部長 学科不問を除いた学科指定の求人企業は、平成15年2月28日現在で土木工学専攻指定が300社弱で、昨年度と比較して40社増えています。しかし、求人数は1400人弱で前年に比べ400人も減少しました。建築学専攻も同様の傾向を示しており、建築学専攻指定も300社弱と前年と比較して60社強

増加しています。しかし、求人数は1400人弱と前年より凡そ350人も減少しています。これは、建設不況の影響で各企業とも人員削減を進めており、大学新卒者に対しても、一企業あたりの求人者数が大幅に減って、就職試験の選抜が非常に厳しくなっていることを示しています。したがって、建設工学科、特に土木工学専攻では、基礎学力と人物的に優れた学生しか就職試験を突破できない事態が続出し、前年度に比べて内定率が低いまま推移しました。

#### 「就職異常事態」を宣言

就職活動はどのような取り組み、結果はどうでしたか。

部長 企業の採用活動は早期化しており、大手企業ではエントリー(応募申し込み)が冬休み明けには始まり、会社説明会を2月～3月に実施するところが多くなってきています。この会社説明会に参加しないと正式な応募が出来ないので、4月になって行動しても「時、既に遅し」と言うことになります。そして大企業は5月には採用活動を終了します。6月以降に中小企業の採用活動が本格化しますが、8月には主だった企業の採用活動は終息します。

このような企業の採用スケジュールを考えますと、夏休みに入る前の就職内定率は60%を越えたいところでしたが、例年以上に力を尽くしたガイダンスの効果も空しく、7月末時点の就職内定率は42.2%と過去最低を記録するに至りました。この値は5年前の平成9年度に比べ15%も低く、事態打開のため教授会で「就職異常事態」を宣言し、卒研指導の先生方より一層の指導と支援をお願いしました。この「就職非常事態宣言」を受け、各学科主導で未内定者向けの緊急就職ガイダンス等を実施し、就職指導部も活動歴の無い学生と父母宛てに活動催促の手紙を出す等の対策を講じました。

夏休み明け後はいづらか持ち直しましたが、内定率は例年を5%ほど下回ったまま最後まで過去最低で推移しました。

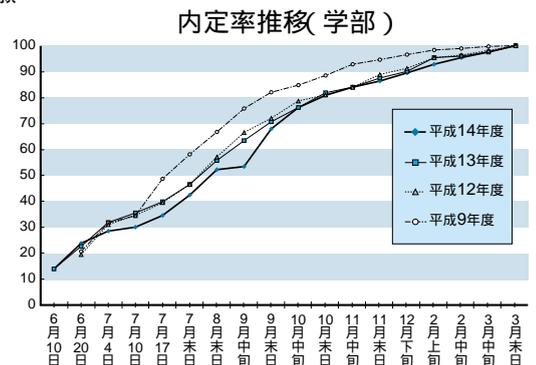
最終的には各学科就職担当教員および卒研指導の先生方、および就職指導

室職員の努力で就職希望者のほぼ全員の内定を得ることが出来ましたが、就職意識の低い学生の増加で本当に苦しい戦線でした。

内定を得た学生に実施したアンケート(アンケートに答えてくれた学生は意識の高い学生が多い)結果を見ますと、求人情報の入手はインターネットが39%を占め、求人票(21%)、企業説明会(18%)と続く。応募時期では過半数が3月以前に応募を始め、内定は6月が25%で1番多く、5月～7月で67%、つまりこの3ヶ月で内定者の3分の2を占めています。応募形態では自由応募が益々増え70%強に及び、大学推薦は21%と減少しています。これは企業が自由競争で人材を確保する方向に向っており、推薦状の重みが低下していることの表れと言えるようです。

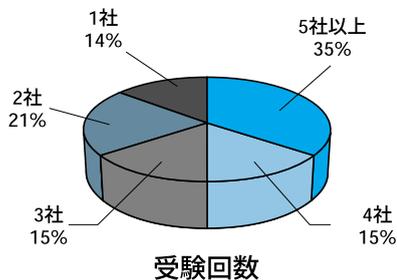
受験回数は厳しさを反映し、1社目合格は昨年より9%ダウンの14%、5社以上受験して合格した者は昨年より5%増の35%、1人平均受験回数で見ても4.2回(昨年3.8回)と数値にも表れています。大手企業(資本金5億円以上又は従業員500人以上の企業、公務員、教員を含む)への内定率は学部で28.2%(昨年29.4%)、大学院50%(昨年43%)と大学院でいくらかの改善が図れたがほぼ横ばいとなっています。業種で見ると機械、電気系学生は57%が製造業(30%は自動車関連)、建設系では建設業に83%となっています。

内定学生の満足度では、大いに満足30%、まあ満足54%、どちらとも言いえない12%、不満4%となっており、80%を越える学生に喜んでもらっており、就職が良いと言う本学に対する高校、予備校の評価の一端をうかがわせています。





企業説明会(名古屋国際会議場)



## モラトリアムの時間を許す経済的余裕

就職内定までの状況は学科によって差がでていますが、この状況は例年と比べてどうですか。

部長 学科によってはこれまでとは異なる様相を示しました。本学の土木工学専攻は特に先生方が熱心で、就職内定率は例年ダントツトップで推移し夏休み前には常に60%を越えていましたが、今年度は37.7%と最下位を記録することになってしまいました。これはゼネコン不況の影響が直撃した結果です。このような厳しい環境の中でも先生方が一丸となって対応し、卒業までには内定率100%を達成しました。一方、建築学専攻は従来内定率最下位で推移していましたが、平成13年度に引き続き14年度も好調で、女子学生が多いにも拘らず年明け早々1番乗りで内定率100%を達成しました。

電気工学科、応用電子工学科は最後まで難航しました。難航した学生の殆どが、就職希望の登録をしていながら全く就職活動をしていない状況でした。細かく指導して手順まで示してもそのまま放置したり、試験も受けない学生も少なからずありました。「就職ができない

い」のではなく、「就職しない」学生が年々増える傾向です。このような学生にモラトリアムの時間を与えるだけの経済的余裕が、親にあることが影響しています。勿論、夢を実現するためにボランティア活動したり、企業家志望のために就職しないフロンティア精神の持ち主の学生もいます。いずれにせよこのような学生については3月に「就職の意思無し」、「自己開拓」として就職指導対象から外しました。

機械工学科は夏休み前不調でしたが、その後自動車産業を中心とする地場産業に支えられて例年とおり堅調に推移しました。

## 日刊工業新聞社、中部経済新聞社が本学企業説明会を取材

平成15年度就職戦線も始まり、本学のマンモス企業説明会に新聞社からも取材を受けられましたが、どんな状況でしたか。

部長 本学は静岡西部、岐阜及び三重北部からの学生も多く、平成15年度生対象の企業説明会は名古屋会場の他、浜松、四日市、岐阜の地方会場での開催を企画し実施しました。2月26日名古屋国際会議場で開催した名古屋会場には大企業から中小企業まで219社の参加があり、600名弱の学生との面談の場となりました。この名古屋会場での企業説明会は参加企業数で国内最大級の規模であり、翌27日の日刊工業新聞及び中部経済新聞に取り上げられ、この様子が紹介されました。地方会場は1会場約30社の地元中心の企業と、各会場50~60名の学生が参加しました。名古屋会場とは異なって小さい規模なので時間が十分あり、企業、学生共にじっくりと納得ゆくまで面談が出来、予想以上の効果があったと思います。

問題は企業説明会に参加しなかった学生の今後の対応です。卒業予定学生数は約800名で、この内大学院進学や教員志望しか考えていない学生が毎年100名程度なので就職対象学生は700名位になるはずですが、それに対し企業説明会に参加した学生は地方会場も含め(重複参加者を除くと)600名位であり、100名程の学生が活動していないことになり

ます。1年間に亘って行った就職ガイダンスの出席者も後半は600名程であり、父母宛でも含めガイダンスへの出席を再三求める注意喚起を放置している学生数とほぼ一致します。

## 「就職する」強い意志を持って行動

就職戦線を突破する心構えについてお教え下さい。

部長 平成14年度就職内定率が振るわなかった原因を考えてみますと、

- (1) 「何とかなるのでは」と楽観し、「絶対就職する」、「この企業に就職したい」と言う意思、意欲が乏しい学生が増えている。
- (2) 企業は採用枠にとらわれず学生を厳選している。
- (3) 常識テスト等ペーパーテストを行う企業が増え、足切りにあって前に進めない。
- (4) 不合格が続く、諦めて行動しない。

にほぼ集約され、平成14年度の轍を踏まめようと平成15年度就職対象学生へのガイダンスで強くアピールしていますが、残念ながら前年以上に反応は鈍い。1年間のガイダンスを通じて「企業の採用基準は年々厳しくなっているのに反比例して、学生の就職意識は年々低下している」ことを強く感じます。

就職戦線を突破するためには上述した4項目に真剣に対峙する事です。「就職する」と言う自分の意志で行動しない限り、「何とかなる」ことは決してありません。

大学生として備えるべき一般常識も憂慮すべき状態です。本学の平成15年度就職対象学生の常識試験結果は100点満点で前年より5点低く、全国平均より約10点低い。学生はこの事実を厳しく受け止め、そのままにしないことが必要です。毎日、新聞を読み、社会情勢、経済動向、漢字の読み書き、それに専門の常識を身につけることを諦めずに努力することが必要です。今のままでは足切りに遇い、先に進めなくなって臍を噛むことになるでしょう。満足ゆく企業に内定を貰うためには、それ相応の努力が不可欠です。

大変お忙しい時間を頂きありがとうございました。

### 第5回就職ガイダンス「こういう人材が欲しい、こういう学生はいらない」から

## 採用する学生のポイントとは?

株式会社シーテック 営業第1部長 芝原 孝郎 氏

現在、各企業では早急なコストダウンを迫られ、リストラ、人員削減と社会情勢は厳しく、就職戦線も大変厳しくなっています。

皆さんに言いたいことは、1. 何のために働くのか考えて欲しい。①社会、地域に貢献すること。②会社の発展に貢献すること。③自分の能力をアップさせ、生活を豊かにすること。

2. 社会では接遇態度が重要です。挨拶がなかなかできない。さわやかな朝の挨拶を大きな声で、はっきりと「ありがとう」と感謝の気持ちを持つようにして下さい。

3. 時間にルーズではいけない。約束の時間を守れないと、その人

の信頼がなくなります。

4. コミュニケーション能力が大切。①日常の話題を持つよう、新聞、雑誌、友人との対話等で情報を常に入れて下さい。②言葉遣いに注意し良いコミュニケーションを取って欲しい。

5. 専門的な知識を勉強していく必要があります。職場に合った知識、技術を身に付けることが大切。その職場によっては、電気主任技術者などの国家資格を持っているかどうか評価につながります。

6. その他として①責任ある行動を取り自分で最終の決断を下す。②チャレンジ精神を持つ。③自分の得意なもの一つ持つ。明るく元氣な責任ある行動を心掛ける。

会社はものすごいスピードで変わっています。年功序列から能力評価へと。闘争心を持って就職戦線に頑張ってもらいたい。



# 韓国東亜大学校との 学術交流提携



3月5日、大韓民国東亜大学校工科大学都市計画・造景学部と本学工学部都市環境デザイン学科の間で学術交流提携の調印が澤岡学長はじめ両大学関係者臨席のもと、本学学長室で執り行われました。(写真)都市環境デザイン学科学科長 舟渡悦夫教授から経緯、提携内容及び東亜大学を紹介して頂き、東亜大学校工科大学都市計画・造景学部学部長 呉允杓教授、Sekyung Oh助教授の両先生からは今後の抱負等を寄稿して頂きました。

## 東亜大学校との学術交流提携にあたって

工学部 都市環境デザイン学科 教授・学科長 舟渡悦夫



都市計画・造景学部の教員と協議



工科大学を訪問

### 1. 提携調印までの経緯

このたび、東亜大学校と本学が学術交流を提携する運びとなったのは、東亜大学校の呉允杓教授がロータリー財団の海外留学基金を利用して、1999年9月から6ヶ月、本学に客員教授として滞在し、本学の多くの教職員と親交を深めたことにあると思います。呉教授と都市環境デザイン学科に所属する私ならびに嶋田喜昭講師は、共同調査研究を通して10余年の付き合いがありました。約半年の日常的な公私にわたる親密な付き合いによって、国際的なものの見方の重要性を再認識させられた次第であります。その当時から本学と東亜大学校との学術交流提携の話はありましたが、本学においては教育カリキュラムの改編など教育指導問題に多忙であったこと、さらに、大学間で提携することの合意形成に時間を要するなどの懸念から、提携の話は先送りになっていました。

その間、都市環境デザイン学科では、将来の学科の方向性を巡って色々論議がされ、そのなかに、学生の自己啓発に対する動機付けの1方策として「海外の学生との交流」はどうであろう

かという意見が出てきました。それならば、距離が近く、渡航費用も安くあがる韓国の学生と本学科の学生が交流をすればよいという話が起こり、まずは学科で一度交流をしてみようという提案がなされました。

そのために、昨年12月、私と嶋田講師ならびに事口寿男教授(前副学長)が東亜大学校に事前打合せに参りました。そのとき、東亜大学校工科大学長、ならびに都市計画・造景学部、土木・海洋学部の教員の皆さんとお会いし、学部・学科間の学術交流の趣旨を理解していただき、提携案が具体化しました。

### 2. 学術交流提携の調印内容

3月5日午後3時、学長室にて、呉(Yun-pyo Oh)教授と私により、以下に示す学術交流提携の調印がされました。なお、東亜大学校からは呉(Suk-ki Oh)教授、呉(Sekyung Oh)助教授が同席され、本学からは澤岡学長、岩間副学長、小野学長付、事口教授、嶋田講師が同席されました。



左:Yun-pyo Oh教授 右:舟渡学科長

### DCEED-DIT DPL-DAU 学術交流提携書(日本語・抄)

- 目的  
大同工業大学工学部都市環境デザイン学科(DCEED-DIT)ならびに東亜大学校工科大学都市計画造景学部(DPL-DAU)は、所属する学生と教育職員との教育、研究および文化的発展の機会を広げると共に、相互の友好親善関係を永続的に確立し、学術交流を行うことを目的とする。
- 目標  
DCEED-DITは、その学生と教育職員をDPL-DAUに送り、大韓民国の文化の理解ならびに基礎科学および科学技術に関する知

識の向上をはかることを希望する。DPL-DAUは、その学生と教育職員をDCEED-DITに送り、日本国の文化の理解ならびに基礎科学および科学技術に関する知識の向上をはかることを希望する。

#### ●協定

この文書により、DCEED-DITならびにDPL-DAUは、学術協力に関する協定を締結する相互の決意を確認する。なお、この協定は法的文書によるものではない。両大学の交流計画と国際活動のすべては、両大学の自由意志に基づくものである。

### 3. 東亜大学校の紹介

東亜大学校は1947年に創設され、現在、11単科大学(日本の学部に対応)、9大学院、28付属研究所、1付属病院からなる私立の総合大学です。学生数は27,000人、教員数は540人であり、工科大学校に限ると、学生数は6,000人、教員数は200人の規模となっています。キャンパスは釜山市に2つあり、工科大学校があるキャンパスは沙下区に山裾に広がっています。また、同大学は12カ国24大学・機関と国際交流協定を結んでおり、我が国とは既に13大学の提携がありますが、名古屋地区の工学部を有する大学との協定は本学が初めてであります。

今回提携した都市計画・造景学部は都市計画学科と造園建築学科から構成されており、同学部の教員数は11人(都市計画学科6人、造園建築学科5人)、学生数は1学年90人(男女比は各50%)となっています。同学部の構成を



東亜大学校のキャンパス



都市計画・造景学部学生の作品(東亜大学校)

本学に対応させると、都市環境デザイン学科の計画系と建築学科の計画系を合わせた分野で構成されているといえます。また、工科大学校は7学部15学科を擁し、同学部以外の関連学部をみると、土木・海洋学部(教員数14人)、地球・環境学部(教員数10人)などがあります。

#### 4. 韓国の大学生の姿

次に、高校生から大学に進学し、就職する学生の一般的な姿について記しておきます。韓国の高校生は3年生になると希望大学を受験しますが、受験時期として7月、10月、12月の3回の機会があり、各時期の定員比率は20%、20%、60%であり、東亜大学校の都市計画・造景学部の入試倍率は6倍、5倍、4倍とのことです。また、入試は12月に実施される国共通の資格試験(数能試験)合格が前提であり、高校の成績など書類試験と面接試験、論文試験が実施されますが、これらの試験については各大学の裁量のもとに実施されるそうです。

大学の開講期は、前期が3月から6月中旬まで、後期が9月から12月中旬までの2学期制となっており、学生は1年次に一括して学部へ入学し、2年次に希望学科へ成績順に進むそうです。また、4年生になると就職試験を受けますが、後期から企業などに就労経験をjする制度があり、約50%の学生が各企業に出向くそうです。大学院への進学率は約10%程度であり、大学院には昼間のフルタイム大学院と夜間の企業人を対象にした産業大学院があり、後者の割合は20%程度となっているそうです。さらに、韓国では徴兵制が実施されており、男子学生は2年まで大学に在籍し、2年2ヶ月の兵役を終え、3年生に復学するのが一般的であるとのことでした。

また、韓国の大学の学費は、国立大学で年26万円、私立大学で年60万円(安い場合)であり、釜山でアパート暮らしの生活費は月3万5千円程度、大学の学生寮に入れば寮費、朝夕の食事付で月1万円とのことjです。ただし、学生寮は留学生や成績のよい学生を優先的に入居させているそうです。



DPL-DAV製図室にて(東亜大学校)

## 成功的な交流のために

東亜大学校 工科大学 都市計画・造景学部 教授・学部長 呉 允杓

去る3月5日、日本の大同工業大学の都市環境デザイン学科と、韓国の東亜大学の都市計画・造景学部の学术交流提携のための調印式は、澤岡大同工業大学学長と関係者の皆様が見守る中で、舟渡悦夫都市環境デザイン学科長と私がお互いSignして、歴史的に行なわれました。

この度は、学科・学部間の提携ではありますが、その内容は、「学生・教授の教育、研究および文化的発展の機会を広げると共に、相互の有効親善関係を永続的に確立し、学术交流を行なう」ことが目的であって、まるで、大学間の提携と同じようjでありました。もっjら大学水準の交流調印は名だけのものが多いのですが、今回行なった調印は、その内容がより具体的であり、現実的jであります。

この調印に至るまでに、1999年より両学科・学部教授の国際共同研究と相互訪問が何度が行なわれ、両大学の学生らに対する特別講義が数度にわたj実施されています。その際、釜山と名古屋地域の都市問題と社会文化に関する見学と討議、さらには歴史的史跡への探索などの実績は、今度の調印を成功させた原動力jでもありました。

そして、これから実施される教授・学生らの両大学への短期間の相互訪問と、Home-stay Planは、両国の社会文化ならびに都市、建築、環境、交通体系などを理解し、共通の観点と代案を探る真の交流機会になることが期待されます。この学术交流が実績を築き、両大学間への調印につながり、両大学の多くの皆様と活発に往来できるその日を期待します。

両国の学生・教授が相互理解さえできれば、共存共生の世界平和に役立つことは確かであると思っています。これこそ、都市、環境、造景の究極の目的であり、最善の代案jであります。

## 生産的な協力体制に向けて

東亜大学校 工科大学 都市計画・造景学部 助教授 Sekyung Oh

このたび2003年3月5日につきましては、初めての訪日でもあり、私にとって非常に貴重な経験でした。また、名古屋に対しても非常によいイメージを持ちました。日本の街が綺麗で、また静かであり、古さと新しさの調和が感じられました。

大同工業大学に到着した時、教員の皆様からあたたかい歓迎を受けました。そこでは、日本と韓国の2学科が協力提携を結び、東亜大学校と大同工業大学間の関係について議論しました。

ここで、私は、2学科間の生産的な協力に向けて、いくつかの意見を提案したいと思います。

1つ目は、直接的あるいは間接的にもお互いに会う機会を増やすことです。アイデアを共有できる共通課題があると思います。2学科が共同研究や実用分野を発見しようということjです。

2つ目は、両地域での都市問題に関する短期間の授業クラスを設けることです。教員と学生が2週間程度のクラスに参加し、都市問題について議論することができるものjです。

3つ目は、1年間あるいは2年間にわたり、知識や実用的な経験を高めるために、学生や教員の交換を行うことjです。

## 平成15年度 日韓学术交流の予定

東亜大学校都市計画・造景学部と大同工業大学工学部都市環境デザイン学科との学术交流提携の趣旨に則り、以下のような学术交流を企画しています。初年度である平成15年度は、まず、6月東亜大学校にて、教員を中心とした学术交流の打合せを行います。次いで、9月初旬東亜大学校にて、学生を中心とした第1回学术交流会を開催する予定です。第3に、時期は未定ですが、東亜大学校の教員、学生に来日してもらい、第2回学术交流会を大同工業大学で開催する予定です。

これらの案件は、先方との調整を必要としますが、第1回学术交流会では、次のようなスケジュールを立案しています。

### 第1回学术交流会(予定)

9月5日(金) 午後:名古屋空港出発、夕方:釜山到着

9月6日(土) 「都市環境に関わる韓日学生シンポジウム(仮称)」の開催内容(案)

#### 1)大同工業大学の学生による研究発表

「中山間過疎地域における若者定住施策の提案」

「GISを用いた地盤環境情報の活用 - 地盤沈下予測 - 」

「界面活性剤を用いた油汚染土地盤の浄化実験」

#### 2)東亜大学校の学生による研究発表

テーマ未定

#### 3)日韓共同研究成果の中間報告

「交通流調査、ドライバー意識調査に基づく韓国のUターン規制の総合的評価に関する研究」

(本学平成15年度研究援助金課題)

#### 4)今後の共同研究計画の立案

9月7日(日) 終日自由行動

9月8日(月) 現場見学会、研究打合せ

9月9日(火) 帰国



今後の計画を練る

# アーヘン工科大学との 学術交流と科学協力

## 第4期継続提携調印

ドイツ連邦共和国アーヘン工科大学(RWTH Aachen University of Technology)と本学との「学術交流・科学協力提携」の協定期限(第3期:1998.12~2002.12)を迎え、2003年1月9日、アーヘン工科大学学長室にて、ブルクハート・ラウフート学長(Prof. Dr. Burkhard Rauhut Rector)、本学アカデミック・コーディネーター五島利兵衛建築学科教授とアーヘン工科大アカデミック・コーディネーター シュバイデル教授(Prof. Dr. Manfred Speidel)の立会いのもとで、第4期継続提携調印が執り行われました。

アーヘン工科大学と本学との「学術交流・科学協力提携」は、1990年12月に調印されてから、国際共同研究(文部科学省科学研究補助金)を始め、学生の企業研修、教員との研究交流など数多くの成果を収めました。特に、学生のために相互の国の産業界で学術研修(国際間のインターンシップ)の機会を与えている協定書は、他大学の姉妹校提携には見られない特色をもった提携内容になっています。

調印式に携わった五島教授から報告して頂きました。

### 調印式の報告

#### 五島利兵衛教授

2003年1月9日午後3時から3時半にかけてアーヘン工科大学学長室にて同大学ブルクハート・ラウフート学長と本学から五島利兵衛が姉妹校提携の継続調印式を執り行った。本学学長澤岡昭の署名と公印済みの協定書 agreement を持参し、今回の調印式では、上記ラウフート学長の署名と公印を頂き、exchange program の継続を申し合わせることであった。調印式において交流継続に関して五島の「I hope」に対して学長は「Of course」と喜んで答えられ、サインされた。また、ブルーの公印も押していただいた。

当日2003年1月9日予定通り、午前11時にアーヘン工科大学建築学科シュバイデル教授の研究室を我々一行が訪問し、同教授と会った。このときに調印式を執り行うことが告げられた。しばらくの歓談の後、同教授の案内でキャンパス見学(主に建築学科)を行い、施設や授業風景を見学



シュバイデル教授(中央)

した。最近の校舎や学生の状況についてガイドして頂いた。その後アーヘンの中心地マーケット広場へ行き、同広場に面する中世の市役所ラトハウスの説明を受け、その地下(日本の1階)の食堂で大学からのもてなしの昼食会に招かれた。本学からは私五島を含めて4名、アーヘン側からシュバイデル教授と、新しくアーヘン工科大学の本学を含むアジア担当の職員になれたウルリケ(Ulrike)さん(女史)の2名で、特にウルリケさんと本学の大学の紹介などについて歓談した。午後3時より上記のように学長室(応接室)にてブルクハート・ラウフート学長と五島がシュバイデル教授を仲介役として懇談、本学より準備した協定書に学長のサインを頂いた。この間約30分で、この調印式には本学の学生達3人も同席した。

調印式については当日、シュバイデル教授から告げられた。私は単なるメッセンジャーとしてアーヘンに訪れただけであったので、何ら準備もしていなく、同教授よりスーツを借り、また名刺も Academic Coordinator of Social and International Activities の名の入ったものを作成していただいた。3時の調印式に間に合わせた。学長への土産は日本から用意していったもの(日本の桜をあしらったインテリア用扇子)を式のとき直接手渡した。国際交流の職員(ワーナーさんとフェンゲルさん)や建築学科の教授(シュバイデル教授とヤンセン教授・副学長)用にもより小さなインテリア用扇子を土産として持参した。ウルリケさんには持参したインテリア用風呂敷をさし上げた。アーヘンの学長からは、名刺入れの book を、また、シュバイデル教授からはアーヘンの空撮写真を土産



ブルクハート・ラウフート学長と握手

に頂いた。学長は若くスポーツマンのような精悍な方で極めて明瞭な応答された。アメリカに長年留学されていたと同った。私も1992年から93年にかけて7ヶ月(オレゴン大学を含めて1年)RWTHAに研修したことを話した。また、本学のこと、特に材料科学の研究、大同特殊鋼との産学協力関係などの話に、学長は関心を持ち、極めて好意的であった。RWTHAと姉妹校提携している日本の大学は東北大学、慶応大学、名古屋大学と本学大同工業大学であるとのこと、韓国や中国との交流は盛んになっているが日本との交流は少なくなっている、今後、交流を盛んにしてゆきたいと述べられた。シュバイデル教授はこの8月で退官される予定である。先のことはまだ何も決まっていないとのこと。交流の推進に関して今後とも可能な限りご指導をお願いした。学長は次の調印も見たいと述べられたことが印象的であった。「参加学生:山田一郎君、池田伸昭君、馬瀬一慶君」

### 第3期(1999年~2002)主な国際交流実績

#### 国際共同研究(文部科学省科学研究補助金)

省エネルギー熱間加工における金属材料の組織の予測と最適制御  
中島浩衛機械工学科教授他  
Dr. Reiner Kopp アーヘン工科大学塑性加工研究所長他  
フリーハンド応用工法の再現とリブ・ヴォールトのルーツ解明  
五島利兵衛建築学科教授他  
Dr. Manfred Speidel アーヘン工科大学建築学科教授他

#### 学生の国際研修

1999.08.09 ~ 10.20	Ms Astrid Wurm
2000.02.20 ~ 04.16	Mr Cornel Abratis
2000.05.01 ~ 09.30	村山 徹(建設工学科建築学専攻)
2001.07.19 ~ 09.19	Ms Evelyn Ratte
2002.07.21 ~ 08.06	金子義典(院生機械工学専攻)

## 平成15年度 入学式・学長告辞



学長 澤岡 昭

大同工業大学へ入学した学部生、大学院生、そして委託生の諸君、入学おめでとう。

ここに、ご来賓はじめ多くの関係者のご出席を得て、入学式を挙行できることに心からお礼申し上げます。

同時にご父母をはじめとする、入学生を育ててこられた皆様にお祝いを申し上げます。この良き日を迎えることができましたのは、本人の努力はもちろんのこと、周囲の皆様のご苦労に対し、改めて敬意を表します。

皆さんは大同工業大学がどんな大学であるか知っていますか。本学は64年の歴史を有する大学です。

福沢諭吉という方を知っていますか。日本に民主主義の考えを導入し、慶応義塾を設立された歴史的な人物です。福沢諭吉の娘婿である福沢桃介もわが国の近代産業を興した人物として、歴史に名を留めております。

福沢桃助は大同電力株式会社を設立し、木曾川にダムを築き発電所を建設しました。

発電された電力を利用するために中部圏に数々の産業が興されました。それが現在の中部電力、名古屋鉄道、大同特殊鋼などへと発展しました。

福沢桃介は、この事業を通じて工学が産業の糧として必要なことを痛感し、工学教育に力を入れたのです。

福沢桃介の亡くなった翌年の1939年に、この意志を継いだ大同製鋼社長の下出義雄は大同工業学校を設立しました。これが大同学園の始まりです。

大同学園から大学が誕生したのが1964年です。それ以来、38年間、本学は工学部だけの単科大学として、エンジニアの養成に力を注いできました。

昨年、情報学部が誕生し、大同工業大学は複数学部をもつ大学として、工学と人文社会科学との融合を目指す大学として方向転換したのです。

君たちは今までの人生をどのように過ごしてきましたか。今ここに一同に会した諸君と私たち教職員は、大同工業大学の家族として、これからの苦楽をともにするのです。

諸君は私たちにとって大事な仲間になったのです。

大同工業大学の基本は、学生の視点に立って教育を行うことです。どうすることが、君

平成15年度入学式は、4月4日(金)石井記念体育館において、新入生、父母、教職員、来賓の列席のもと厳粛に挙行されました。

新入生は、工学部584名(機械工学科132名、情報機械システム工学科117名、電気電子工学科118名、建築学科120名、都市環境デザイン学科97名)情報学部245名(情報学科)、工学部編入生2名、大学院工学研究科修士課程50名(機械工学専攻33名、電気・電子工学専攻12名、建設工学専攻5名)委託生1名、が入学しました。

たちのためになるかを、最優先に私たちは考えています。しかし、学生の視点に立つということは、甘やかせることではありません。

本日の午後には基礎学力の試験があります。これから勉強する工学や情報学の基礎を十分にマスターしていない学生が沢山いるはず。本日の試験の結果を参考に、学力が不十分の学生に対する補習を行うことを計画しています。

大同工業大学は、卒業が難しい大学の一つであると言われます。4年間で卒業できる学生は、80%以下です。最近では高校教育の多様化が急速に進んでおり、大学の授業についていけないため、ストレートで卒業できる学生の割合は下がる傾向にあります。

最初の出だしが大切です。君たち一人一人の自覚が大切です。特に、はじめて親元から離れてアパートや下宿住まいになる諸君は、気持ちを強くもって下さい。

大学生活は勉強ばかりではありません。5月下旬には大学祭があります。秋には庄内川でボートのレガッタがあり、全員が参加することができます。すでに全国制覇をしたクラブもありますし、急成長を遂げている運動部もあります。クラブや部活動に参加する人はエキサイティングな学生生活をおくることでしょ。

私は人間の才能とはどのようなものか、いつも考えてきました。結論を簡単に述べましょう。

生まれた赤ちゃんが成長して、物心がついてくると一人一人の性格は驚くほど異なることが分かります。両親を通して先祖から受け継いだ遺伝子の一部が目覚めた結果なのです。

小学生の頃になると、勉強のできる子、運動の得意な子が目立つようになり、中学や高校では、生徒の能力による分類づけが進行するようになります。しかし本当に、人は生まれながらに能力の差があるのでしょうか。

最近の研究によると、人間はほとんど同じ遺伝子をもっていることが分かってきました。しかし、どうして、小学生の頃から頭の良い子、悪い子と呼ばれるようになるのでしょうか。

遺伝子はDNAという化学物質の配列のなかにあるのです。それは4種類の

化学分子の組み合わせなのです。ほとんどの遺伝子はDNAの中で、眠った状態にあります。遺伝子の特定の部分が早く目を覚ました子供が、頭の良い子とよばれるようになるのです。

教育とは、一人一人の遺伝子をそれぞれに合った方法で、目を覚まさせることであると考えています。同じ方法で、遺伝子の寝ている部分を起こすことは不可能です。

最も効果的に寝ている遺伝子を起こす方法は、興奮させることです。わくわくさせることです。強引に起こした遺伝子は目を覚まさないばかりか、起こしても直ぐにまた、眠ってしまいます。

人生で好きなことに思う存分時間をかけることができる最後のチャンスが大学生時代です。このチャンスを大同工業大学で生かしてください。

自分にとって何が好きなのか、何をやりたいのか、何が得意なのか。これが分かり、得意なことを中心にした生活を始めると毎日が楽しくなり、自信がついてくるものです。しかし、自分が本当に何が好きなのかを見つけることは容易ではありません。

まず考え、そして思うことを存分にやいなさい。一生懸命やっている、人生は思いもかけない方向に展開するものです。自分の可能性に賭けることです。多くのことを経験することによって変わってゆく自分に驚くはず。です。

諸君、待ち遠しいこと、苦しいこと、過ぎてしまえば、時はあっという間に過ぎるものです。4年間の学部生活、さらに大学院入学の諸君は2年間の研究生生活、これからの学生生活を勉強、研究、スポーツ、部活、友人とのディスカッションなどに思いっきりぶつけて、愉快的な青春時代を過ごされることを心より願っています。

私たち、教職員と在校生は皆さんをこころから歓迎します。



## 平成14年度 学位記授与式



早春の3月20日(木)平成14年度学位記授与式が石井記念体育館で挙行されました。澤岡学長から「これからの日本では、大量生産の時代が終わって、一人ひとりの好みに合った商品やサービスをきめ細かく、しかも的確に素早く提供できる企業が発展し、生き残るのです。諸君の就職先における仕事の内容もどんどん変わって行くことでしょう。君たち一人ひとりが、柔軟に対応して行かなければなりません。これでも大丈夫ということはありません。自分を磨き、それぞれの得意技を磨くことが大切です。

仕事の好きも嫌いもありません。何でもこなす覚悟が必要です。しかも、技術は日進月歩で変わってゆきます。大学で学んだことはすぐに役に立たなくなるでしょう。しかし、考え方の基本は変わりません。恐れることはなにもありません。これからの、一生は勉強です。もっと勉強しておけば良かったと思うことにすぐぶつかるはず。そんな時、大学を思い出して下さい。どのように変わるとも大同工業大学は君たちにとって一生の頼りになるふるさとです。もう一度勉強する場として、相談にのってくれる場として、いつでも扉を開いています。大同工業大学は永遠に君たちのふるさとです。」

との告示を厳粛に受け止め、卒業生を総代として横井万理江さん(建設工学科建築学専攻)は「私達卒業生一同は、大同工業大学の卒業生であることを誇りとして、日々精進を重

早春の3月20日(木)平成14年度学位記授与式が石井記念体育館で挙行されました。

澤岡学長から「これからの日本では、大量生産の時代が終わって、一人ひとりの好みに合った商品やサービスをきめ細かく、しかも的確に素早く提供できる企業が発展し、生き残るのです。諸君の就職先



横井万理江さん



ね、悩みや苦難に直面した時は、決して挫けることなく、一步一步前進してゆく決意であります。」との力強く希望に溢れた答辞があり、学部の卒業生735名、大学院修士課程修了生32名、博士課程学位記授与生2名、委託生修了生2名らは、実社会へと巣立ちました。

卒業パーティーは、名古屋観光ホテル(名古屋市中区)に場所を移して、650余名の参加者のもとで開催されました。卒業生を代表して、山口豊実行委員会委員長から、「この度、たくさんの思い出が詰まった大同工業大学を卒業し、四月からは就職、進学等それぞれが新しいスタートを切る事になりました。今後は本学で学んだことを活かし、さらに多くのことを学びながら、頑張っていきたいと思っております。」と力強い挨拶があり、卒業生らは、ゼミ仲間、教職員と終了予定時間を越えるまで別れを惜しんでいました。



## 平成14年度 学長賞・三好賞

受賞おめでとうございます。学長賞・三好賞・日本機械学会畠山賞・(社)自動車技術会大学院研究奨励賞が3月20日(木)挙行の学位記授与式において次の方々には授与されました。(敬称略)

### 学長賞

#### 成績優秀者

#### 機械工学科

桑 匠磨(高山工業高校)  
永井克佳(知多高校)  
山口 豊(三重高校)  
川上雄司(田川高校)

#### 電気工学科

木村直樹(東山工業高校)  
鳥居信吾(大検)

#### 建設工学科(土木)

宇佐美千恵(星陵高校)  
近藤由紀(春日井南高校)

#### 建設工学科(建築)

長坂亜希子(津東高校)  
野田理恵(岐阜高校)

関谷麻由子(岐阜高校)

応用電子工学科 塚本壮彦(一宮北高校)

平田幸一(豊田北高校)

#### 課外活動優秀者

レーシングカート部 磯貝真典(大同高校)

#### 大学院修士論文優秀者

機械工学専攻 早瀬倫嗣、松井信也

電気・電子工学専攻 勝山裕一、田中孝章

建設工学専攻 滝沢宣人、星野貴之

### 三好賞

機械工学科 廣瀬晴夫(尾西高校)

吉川裕介(四日市工業高校)

電気工学科 杉田圭一朗(浜松工業高校)

建設工学科(土木) 堀井孝太郎(緑高校)

建設工学科(建築) 馬瀬一慶(大同高校)

応用電子工学科 大田浩史(半田工業高校)

### 日本機械学会 畠山賞

機械工学科 桑 匠磨(高山工業高校)

永井克佳(知多高校)

山口 豊(三重高校)

### (社)自動車技術会 大学院研究奨励賞

機械工学専攻 徳田敏哉

建設工学専攻 星野貴之

# 新任教員のプロフィール

4月1日付で本学に着任されました先生方です。自己紹介をして頂きます。



教養部物理学教室  
講師

さいだ ひろみ  
齋田 浩見

**プロフィール**  
最終学歴 京都大学大学院(人間環境学研究科博士課程 自然環境論講座)  
学位 博士(人間 環境学)  
最終前歴 大阪市立大学理学部宇宙物理学研究室  
生年月日 1972年9月27日  
趣味 スキー、トレーニングジム

専門は宇宙物理学、特にブラックホールです。ブラックホールとは宇宙に浮かぶ特殊な領域で、そこからは何者も(光さえも)脱出できない領域です。そんな、おおよそ人間社会には直接関わりが無いモノ・コトを研究しています。でも物理学は、人間の文明を直接支える工学の基礎にも通じます。というのも、物理的に有り得ないことを考えて技術を作ることとは不可能ですから。

ところで出身は群馬の田舎で、大学入学から今年の3月まで11年間、関西に(京都10年、大阪1年)住みました。関東と関西の言葉のミックスです。今年からさらに尾張の言葉も混ざり始めます。そんな変な言葉で、変な(ブラックホールのような)自然現象の基礎から文明社会(を直接支える工学)の基礎にまでなるような物理を講義します。そんな物理の「広さ」を皆さんに感じ取ってもらえれば嬉しいのです。



教養部外国語教室  
講師

うめだ れいこ  
梅田 礼子

**プロフィール**  
最終学歴 神戸大学大学院(文化学研究科文化構造専攻)  
学位 修士(神戸大学大学院 英米文学専攻)  
最終前歴 高松工業高等専門学校  
生年月日 1966年3月31日  
専門分野 言語学、英語学  
趣味 音楽、ギター、歌、ダンス、鉛筆画、読書

京都で生まれ育ち、神戸・高松と住んでこちらに移ってきました。唯一つった讃岐弁は「いかん」です。関西弁では「あかん」で、「いかん」も言わなくはない、通じるので、似ているからうつるわけです。全然似ていない表現、例えば「まんてがん(いろいろと盛りだくさん)」や「なんがでつきゃんな!」What's new?などはうつりません。方言学は専門ではないですが、「ことば」に興味があり、言語学をやっています。思えば小さい頃からおしゃべりで、ダジャレを懸命に考えているような人間なので、言語学はぴったりなのかもしれません。ここ名古屋では私のボケにみなさんがどのようなツッコミを入れてくれるか、楽しみです。

主な趣味は音楽です。好きなジャンルはジャズ・ロック・ポップス・ブルースと一見バラバラですが、

自分の中では「骨太」ということで一応つながっています。上手いだけの音楽はつまらない。ニール・ヤングやS・レイヴーンのように人間臭いアーティストが好きです。自分も歌・キダーをしていて、「骨太」を目指しています。

独り言と鼻歌で常にぶつぶつ言っている私ですが、こわがらず気楽に話しかけて下さいね。(・・・って、これ、我ながら冷静に考えるとこわいですね。)



教養部外国語教室  
講師

まつ い とよ つく  
松井 豊次

**プロフィール**  
最終学歴 同志社大学大学院(文学研究科英文学専攻博士課程前期)  
テンプル大学ジャパン大学院(教育学英語教授法修士課程)  
学位 修士(文学・教育学)  
最終前歴 京都府立田辺高等学校  
生年月日 1958年10月15日  
趣味 写真、映画鑑賞、音楽鑑賞

東京都立高等学校で8年間、京都府立高等学校で11年間英語教育に携わり、この4月から大同工業大学に迎えていただくことになりました。19年間の高校教師生活の中で通算12年間工業科の生徒に英語を教える中で、その経験を踏まえて、本学でもみなさんに少しでも英語の面白さを分かってもらえるようがんばりたいと思っています。

私の専門は、トマス・ハーディと言う作家を中心とする英語ヴィクトリア朝中期から後期にかけての作家・作品研究です。また、この5年間は昼間は教師でありながら夜はテンプル大学ジャパンの夜間大学院に通い、英語教授法を学ぶ学生でもあると言う二足わらじ的な生活を送ってきました。とても大変でしたが、充実した5年間でもあり、生涯学習の大切さを学ぶことができました。この体験は、学ぶ意欲にあふれたみなさんの指導にきっと役立つと信じています。

名古屋での生活は初めてですが、はやく慣れたと思っています。どうかよろしくお祈りします。



工学部情報システム工学科 助教授

おがた かず や  
尾形 和哉

**プロフィール**  
最終学歴 名古屋大学大学院(工学研究科情報工学専攻)  
学位 博士(工学)  
最終前歴 名古屋大学工学研究科  
生年月日 1966年1月7日  
趣味 音楽鑑賞、料理

これまでシステム制御理論とロボットの運動学に関心を持ち研究をしてきました。苦勞して作った制御系やプログラムが設計仕様どおりの動きをしたと

きの喜びは大変なものです。ロボットの運動解析は決して難しい理論を必要とするわけではありませんが、計算は複雑であり、設計者にはミスのない粘り強い計算と複雑なプログラムの作成が要求されます。これらにミスがあるとロボットは人間にとっての凶器へと変貌します。このような世の中でしばしば問題になる人災を未然に防ぐためのエンジニアリングの方法論を考えてみたいと思っています。

昨今の大学は国の改革の荒波に巻き込まれ日々変革を続けていますが、真に大学の使命が議論されているかは疑問です。大同工業大学は教育重視の大学であると感じ、大学の目標が明確なことに感銘を受けました。皆さんの貴重な青春時代の成長に少しでも貢献できるような努力をまいります。



工学部電気電子工学科 教授

さとう よし ひさ  
佐藤 義久

**プロフィール**  
最終学歴 東京工業大学大学院総合理工学研究科創造エネルギー専攻博士課程  
学位 工学博士  
最終前歴 (株)東芝 電力システム社  
生年月日 1950年4月21日  
趣味 ゴルフ、読書、田園生活

東芝の重電部門で核融合、加速器、超電導応用、新エネルギー技術の開発に携わってきました。大同工業大学では、これらの経験をベースに再生可能エネルギーの有効活用に関する研究開発を行いたいと思います。現在、全世界で消費されているエネルギーは石油換算で90億トン/年にものぼり、地球環境の悪化が懸念されています。太陽光・風力・バイオマス発電などの再生可能エネルギーの有効活用による地球環境の保全に尽くしたいと考えています。学生諸君と一緒にものづくを楽しみながら研究室を立ち上げて行きたいと考えています。興味のある学生は学年を問わず気楽に研究室に顔をだして下さい。



情報学部情報工学科 教授

ほんだ たかし  
本田 隆司

**プロフィール**  
最終学歴 東北大学大学院(情報工学)  
学位 工学博士  
最終前歴 NTT 東日本(NTT-AT)  
生年月日 1953年11月25日  
趣味 あるく(散歩・トレッキング)、旅行

出身は白虎隊&鶴ヶ城の観光地、福島県会津若松です。出身の東北大学では、通信衛星を使ったパケット交換システムの研究をしており、ハワイ大やシドニー大との間で通信実験を行っていました。学科ビル屋上の巨大パラソラが仙台市内からも見える山の上で目立っていました。当時はまだ机大のミニコンや計算機センターの大型機がメインで、8ビットワンボードコンピュータの出始めという時代で、それ以来の元祖「パソコン少年」です(キャリア30年?)

大学院修了後、電電公社武蔵野電気通信研究所に入り、15年以上データ通信系の方式検証やシ

ステム設計を行いました。自らの関与したシステムが全国導入される経緯を見ていると感慨深いものがありました。

ここ数年は研究所子会社にて、企業通信コンサルテーションやインターネット電話評価を行っていました。

大学以来ずっとネットワーク回りにいた人間ですので、これからも関連分野では活動して行けるものと思っております。



情報学部情報学科  
教授

やま もと たけ のぶ  
山本武信

**プロフィール**  
最終学歴 九州大学哲学科  
学位 文学士  
最終前歴 社団法人共同通信社  
生年月日 1954年9月23日  
趣味 禅、太極拳、音楽、絵画鑑賞

もう一度昔に戻れるとしたら、「大学時代」と「欧州時代」と答えるでしょう。大学時代は数限りない明日の日を問い返す、めくるめくような可能性の時代でした。人生はすべて実験です。10年後、20年後の自分を見つめ、夢を描くというのはいいことです。私の原点は学生時代にあります。

社会に出て最も爽り多かったのは、共同通信社の特派員として欧州に駐在した1990年代です。海外取材は国内の何倍も刺激的で濃密でした。異文化との火花の散るような遭遇と対話の日々だったからでしょう。自分の目で直接、地球という書物を読む国際ジャーナリストの仕事はわくわくする面白さと、ぞっとする不安の谷間で、現実を直視し、思考を深め、世界観を築き上げる営みです。

言葉や思想は自ら体験して初めて真実となります。世界各地での取材経験と思索の成果を原点である大学の教育現場に生かしたいと思っています。



情報学部情報学科  
助教授

よこ やま やよ い  
横山弥生

**プロフィール**  
最終学歴 武蔵野美術大学 造形学部 油絵学科  
学位 学士(芸術)  
最終前歴 横浜美術短期大学  
生年月日 1960年3月8日  
趣味 旅行

高校迄を静岡、名古屋、岐阜で過ごしましたが、「こんな田舎は嫌だ」と大学入学を機に東京へ行き、20年間を過ごしました。しかし、嫌で出て行った地に戻って来るとは何かの縁でしょう。

大学では油絵を専攻していたのに、卒業後CGの道へ。なぜ油絵からCGに?とよく聞かれますが、やはりこれも何かの縁。しかし、その頃のデジタル表現は現在のように自由ではなく、いつやめようかと思いつけながらも現在まで続けてこられたのは、大きな出会いがあったからです。日本の基礎造形・デザイン、図形幾何学を築き上げた大御所ともいえる先生方と共に研究する機会を得、それらとCGとを結び共通項を見出すことに魅力を感じました。それが私のもう一つの研究である数値造形表現へと発展していったのです。たぶん、CGという技術だけでは行き詰まっていたことでしょう。このように、私の研究の方向性を導いてくれたのは常に人との出会いとか縁でした。さあ、大学ではどんな出会いが待っているか。楽しみです。



教養部外国語教室教授  
福原意玄

私が大同工大に赴任したのは昭和40年4月、本学が4年制の大学になって2年目のこと

で現在は取り壊された旧大同1号館が半分完成した時でした。この校舎には当時この地区で最先端の語学練習のLL教室が設置され、外国語の出来る技術者の育成を本学教育の一つの柱とした外国語教育に取り組んで来ました。以後38年の思い出は一言では申しませんが、常に教職員が一体となって新しい大学づくりに励んで来たことは事実です。

この度大学を去るにあって特に心に残ることが二つあります。一つは国際交流のことです。私も10年ほど前に国際交流の仕事のお手伝いをさせていただいておりました。本学はご承知の通り6つの外国の大学と提携をしています。このことは本学の様な小さな大学では大変なことです。アメリカへは毎年夏に学生の短期留学を行っており、先生方も研究に行かれますが、現在ほとんど交流のなくなっている大学もあります。アメリカだけではなく、ぜひ他の大学とも活発な交流を続けられんことを願う次第です。

もう一つは第二外国語のことです。2年前からの新カリキュラムで第2外国語が要卒単位からはずされ全くの自由科目となったことです。これは外国語を重視してきた本学として大変残念なことですし、これからのグローバル時代にはコミュニケーションの道具としてのみの外国語ではなく、さまざまな異文化を学び理解することが必要不可欠であると確信しています。いつの日にかまた第二外国語が復活することを切に願っております。

私が38年間大同工大に奉職できたことは本学を去られた多くの先生方、現在の教職員の皆様のご指導ご鞭撻のお陰と感謝しております。最後に皆様に私の好きなゲ・テのこの言葉を贈りたいと思います。  
Es irrt der Mensch, solang' er strebt.(Faust 317)  
「人間は努力するかぎり、迷うものだ」  
大同工大のご発展を祈念しております。

## 退任される先生方からのメッセージ

3月31日付けで8名の先生方が退任されました。



教養部物理学教室教授  
加瀬博己

1969年4月の着任以来34年間勤務させて頂きました。その間、先輩後輩の教職員・学生の皆様に支えられて来ました。心より感謝です。

旧い思い出を綴らせて下さい。31才で学振の奨励研究員からの着任でしたが、じきに洗礼を受けたのは、当時の強烈な学生運動でした。着任後数年で学生次長を拝命していたとき、学生側が理事者側を責め立てる学生集会の司会役を仰せつかりました。経理の公開問題で根柢葉柢聞かれ「皆さんは我々を信用出来ないのか、もう少し信用してくれませんか」と顔を真っ赤にして抗議される壇上の専務理事に、会場が騒然となったとき、司会者が「信用できる根柢を説明して頂けませんか」のようなことを言ったと思います。この発言が幸か不幸か、学生側からも理事者側からも歓迎されたようでした。

また、学生委員会の下に大学問題検討委員会という大それた名称の委員会があって、授業改善などを学生会も交えて話し合っていました。そこで「進度別クラスの授業」なる提案を私がしていました。当時の提案は、教員側には不評でしたが、学生側には意外に受け入れられていたと思います。多分、この2点のために、(当時、学生参加であった)学生部長選に、学生会が私を推薦したらしく、30才代半ばの若造が2位に選ばれてしまいました。1位の先生が転勤され、(1年程の期間の)学生部長役が私に否応なく回ってきました。その後の期間の5月宴祭の折り、賛助参加の某女子大茶道部へ、学生会長と2人で挨拶に出向きました。「ウチの学生部長です」と学生会長が私を紹介すると、「まさかー、先輩でしょう」と明るい応対を受けたのは楽しい思い出でした。学生集会のときの学生会長さんからは、長年賀状を頂くことになりました。大同工大の永遠の発展を祈ります。



教養部外国語教室助教授  
橋本博美

平成10年4月に赴任以来、大学、学園の教職員の皆様方には大変お世話になりました。

一見短いようにも思われる期間ではありますが、本学で過ごした5年間を振り返ると、じつに多くのことを経験し、多くの方々と交流する機会を与えられ、まさに2倍3倍に凝縮された、密度の濃い時間であったと感じます。学内のみならず、公開講座、各種講演会、コンセプトコンクール、また学内外助成金を得ての研究活動などを通じて、数え切れない出会いに恵まれ、そのいくつかは私の生涯の宝物となりました。

一方、この20年間、語学教師として、また外国文学を研究する者として、つねに異文化理解ということを開口に、学生にも説いてきたわけですが、本学での日々は、まさにそのことを目の前に突きつけられた試練の時でもあり、異文化とはなにも外国との関係の中にも存在するのではない、という自明の事実を痛感しました。しかし、画一的でないということ、多様であるということは、ある意味で、社会の健全さを意味するともいえます。そして、異なる感性、価値観、考え方を持つ相手と理解し合うことの必要性は、

今まさに世界中の人間に求められている切実な問題です。それにはまず、一人一人が相手の心情や立場、痛みを慮る、ゆたかな想像力と知性をもち、双方が対等の立場で、互いに歩み寄る姿勢が肝要なのだということ、本学での経験から学びました。心的労力を必要とする難しいことではありますが、異質な者同士が、互いの尊厳を貴びつつ、融合、共生できることが文化的成熟というものでありましょう。

大同工業大学も、今後、情報学部を中心に、「文科系」学生、女子学生を多く受け入れてゆくことなのでしょう。どうか、ゆたかな想像力と知性をもって、異文化の壁と摩擦を乗り越え、ますますご発展されますことを心から祈っております。重ねて、皆様方のご厚情に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



工学部情報機械  
システム工学科教授

### 糸見和信

二つの企業で設計や技術行政を担当した後、本学で8年間にお世話になりました。今人気のNHK総合TV「プロジェクトX」と同様な生きざまをして、90年頃までの日本の技術力・経済力発展の一翼を担ってきたと自負する私には、一流とされる企業でも昨今の若い人の活力、責任感の足りなさに日本の将来をすこぶる危惧しておりました。案の定、日本の技術力は停滞し経済はどん底にあります。そこで次世代の育成に携われればと準備していたところ、幸いにも本学に奉職させていただきました。このようなケースは大学同級生の中でも私だけで羨望されました。本学における一貫した信念は“企業経験を生かすこと”、行政には目もくれず“学生とのスキンシップによる身近な教育をすること”、結果として『ヤル気と思考力・そして自信』を持たせることにありました。大学はさしずめ製造業でいえば、高校から素材を仕入れ、高い付加価値を与えて、よい品質の、コストパフォーマンスの高い、早く役立つ技術者を、最大限多く社会に送り出すことと心してきました。幸いにも毎年必須科目を担当し、機械系学生全員と接する立場に恵まれ、この信念のもとあえて心賞必罰と叱咤激励を励行し、『最もダメな人間は逃げる人間』と言い続け「厳しさ」を教えきたつもりです。強く印象に残るのは、成績がラストからシングルの研究生二人が、自ら学会発表する論文の期限前夜まで全く出来ておらず、強く叱責したら翌朝完成させて私の机上にそっと置かれていたことです。午後登校し修正して間に合いました。能力は高いが表に出せない!成績なんて当てにならない!ヤル気を引き出してやる!ことこそ本人と社会のためと確信したものです。今心した多くの学生は、今日の厳しい荒波を乗り越える力強さをもって社会で活躍しているものと期待し信じております。



工学部情報機械  
システム工学科教授

### 藤井省三

平成8年4月に本学の機械工学科の教授として赴任し、平成13年4月に機械工学科の分割により設立された情報機械システム工学科に移り、計7年間勤務させていただきました。本学に赴任する前は国立大学に長年に亘り勤務しており、

根っからの大学人ですが、私立大学は初めての経験でいろいろカルチャーショックを受けました。

国立大学では研究偏重で教育軽視でした。教授や先輩から研究は厳しく指導されたが、教育に関しては殆ど指導を受けた記憶がない。本学で修士の学生が5回学長賞を受ける研究指導をできました。退職するに当たり、研究室の卒業生が多数集まり心温まる謝恩会を開いてくれました。一方、この7年間は教育に大部分の時間をとられ、授業評価にしたがい毎年ノートを書き直し、授業方法を工夫しました。年々授業内容の量とレベルが下がっていったのは大変残念でした。相手が不特定多数の生身の人間である教育は研究より難しいというのが実感です。

定年退官のため1年間の短い期間でしたが、大学院工学研究科長を勤めさせていただき、いろいろなことがありましたが、大過なく進めることができ、また、古希に至るまで在籍し、健康で定年を迎えることができましたことは、皆様のご支援とご協力におまじしたことを心から感謝致しております。

これよりは、本学が推進している情報学部や特色ある教育重視の大学が実を結び、益々大学が発展することを陰ながらお祈りします。併せて、皆様の益々のご健勝とご多幸を祈りまして、退任の挨拶と致します。



工学部電気電子工学科  
教授

### 近藤芳孝

平成6年に戸澤学長から学生部長を拝命し、2年目の平成8年5月19日の大学祭最終日の打ち上げで当時電気工学科2年生の青山智英君が酒の一気飲みによる急性アルコール中毒で亡くなりました。この事件を防ぐために、その当時私がどんな手だてをとっているべきであったか、あるいは、とれたか今もって判りませんが、それ以来、亡くなった青山君、彼のご両親には真に相済まぬ事であった、申し訳ないと思っております。

酒の新年の賀春会に、私は事件以来でたことがありません。これは当時の学生部長であった私の責務であると思っております。学内で、かなりの量のアルコールを給餌するこの催しが、学内で学生を交えた教員の酒に対する姿勢の風化を促していると思えてなりません。一升瓶が大手を振りだしたらお終いです。もう、すでにエスカレートの兆しが見えます。学内での公式な場での飲酒は、ビール限定を切望しております。

戦後60年近く経った今でも、戦争犠牲者の怒りは消えることが無く、国際問題としてしばしば浮かび上がってきます。肉親を奪ったものへの怒りは決して消えません。青山君のお母さんは息子さんを亡くされた1年の間に見違えるほどにお年を召されました。ご両親の大同工大への怒りは、年を経ても消えることはありません。社会は大同工大の一気飲み死亡事件を忘れません。2度と酒に関わる事件を起してはなりません。再起不能の可能性がります。



情報学部情報工学科教授

### 佐橋稔雄

昭和45(1970)年4月から33年間、電気工学科にお世話になりました。今でも70Eだと

思っております。新しい学問をやりたいと胸を膨らませ、心を踊らせて入ってきましたが、現実には甘くなく、来る年も来る年も、右に左にとさまよっておりました。自分の研究「スポーツ物理学：スキーの回転機構の物理的な解明」を見つけ出すのに10年を要しました。その間アメリカ・ポートランド大学に留学させて頂いたのも、新しい学問を見つけるのに役に立ちました。以後、電気でない、工学でない最後まで非難され続けられました。新しい学問を始めれば、それが電気でない事も工学でない事も明らかです。勿論、現在の体育学にも入りませぬ。

スポーツのコーチ理論が物理学に程遠い事は、野球、相撲、水泳、ゴルフ等どれを見ても明らかです。これらのスポーツ理論が、各工学の専門分野の理論といかにかけ離れている事か。それでも、スポーツ学を研究する事は無駄な事と思っているのだろうか。

物理学の上に乗る、スキー・コーチ理論を作り上げる事が私の目的であります。今後は新しい研究所を立ち上げ、やり残した仕事をやる予定であります。大同では、教育にも、役職にも余り役立たなかった事をお詫びし、大同の益々の発展を祈っております。



情報学部情報工学科教授  
藤田 順治

1996年に電気工学科に仲間入りして以来、目まぐるしく変化に富んだ7年でした。今までの学生実験をもっと楽しく役立つものにして、中井先生のお手伝いをして改革実行。電気磁気学のように抽象的な概念を、からだと理解して貰おうと、Lecture Demonstrationの試行。計算機については全く素人の情報処理センター長。これは幸いにも、関連する有能な方々が、機種更新も新キャンパスへの移転もすべてこなして下さり、「なんにもせんター長」でバトンタッチ。

やれやれと思う間も無く、情報学部を新設するので、「学部長候補になれ!」と口説かれ、「後1年しか寿命の無い者を学部長候補にするなんて通りませんよ!」と固辞したのですが、なんとなく誤魔化されたというか、愚かにも引き受けてしまい、案の定、屋根に登ったところで梯子を外されてしまいました。でも、皆様方の努力により、順調にスタート。ロケットと言えば打ち上げ成功!さてどの方向に飛んで行くべきかをしっかり見極め、軌道修正とさらなる推進が必要です。

しかし、私には掛け替えのない経験でした。私学とはどこどころか、教育理念を貫くこと、教育と研究を両立させることがどんなに難しいか、最後の1年ほどの間にすごく勉強させて頂きました。このような機会を与えて下さったことを含めて感謝々々です。

一つ気になること。最近の大学教員の間にどんなストレスが溜って来ているように見受けられます。理由はいろいろでしょうが、本当に学生に対してきめ細かい教育をしようと思うと、とても時間が足りない。真の教育をしようと思えば、そのための研究が非常に重要です。その研究に費やす時間も金も無い。教育重視は大変立派なことですが、それぞれの教職員が、持てる力を十二分に発揮できる条件を整えてこそ、教育重視が実るものと思います。教職員が情熱を込め、喜びに満ちて毎日を送れるような環境作り、みんなで力を合わせて取り組みませんか。これが最後のお願いです。



## 平成14年度 クラブ活動報告会

### 最も活躍したハンドボール部、陸上部に最優秀賞

平成14年度を締めくくるクラブ活動報告会(クラブ委員会主催)が、1月17日(金)コピエホールで、部、同好会など43所属団体のうち38団体が参加して開催されました。

百瀬クラブ副委員長、酒井学生部長の挨拶に引き続いて、各クラブの代表者から日頃の練習、試合等活躍状況について報告。輝かしい成績を収めたクラブ代表者は、堂々とした纏まりある発表に聴衆者から盛んな拍手が。あまり活躍が出来なかったクラブ発表でも、次年度の活躍を誓っていました。

最も活躍したクラブ団体、個人に、酒井学生部長から表彰されました。

#### [団体の部]

##### 最優秀賞

#### ハンドボール部 (顧問/佐藤壮一郎)

- 東海学生春季リーグ戦 一部 4位
- 東海学生秋季リーグ戦 一部 2位
- 平成14年度東海学生ハンドボール大会  
Bチーム:準優勝 Aチーム:3位
- 西日本学生選手権 ベスト16(全日本選手権出場権獲得)
- 第45回全日本学生選手権大会 ベスト8
- 愛知学生選手権 Aチーム:優勝

本年度の目標であった全日本学生選手権大会ベスト8を達成した。

また、各大学が来年の新チームで挑む愛知学生選手権で優勝し、初のタイトルを獲得した。

#### 陸上競技部 (顧問/前馬 哲夫)

- 第68回東海学生陸上競技対抗選手権大会  
(1万m 01J大和5位・01E片桐6位)
- 第55回西日本学生選手権大会  
(1万m 01J大和・5千m 01E片桐)
- 第29回東海学生秋季選手権大会  
(1万m 01J大和3位・01E片桐4位)
- 名岐駅伝予選会 優勝(名岐駅伝本選出場権獲得)

駅伝デビューも果たし、部員は少数ながらも確実に結果を出してきている。

##### 優秀賞

#### バレーボール部 (顧問/鹿島 孝之)

- 東海学生春季リーグ戦 一部 6位
  - 東海学生秋季リーグ戦 一部 7位
  - 西日本学生選手権大会出場
- 確実に一部に定着してきている。

##### 奨励賞

#### 漕艇部 (顧問/榎田 浩)

- 中日本レガッタ エイト4位
- 中部学生ボート選手権大会 決勝4位01J安藤
- 市民スポーツ祭ボート競技  
エイト1位・シングル2位・ダブル1位
- 全日本大学選手権大会出場
- 全日本新人選手権大会出場

#### 吹奏楽団 (顧問/片岡 智幸)

- 入学式・学位記授与式・大学祭等、大学行事で活躍。
- 柴田七夕祭り等、永年にわたり、地域住民の行事にも参加し、積極的に交流をはかっている。
- 定期演奏会の開催。

#### F.I.L.M部 (顧問/小川 照美)

- 教育懇談会で上映した学生行事紹介ビデオを自主的に作成し、父母から好評を得ている。
- 大同校舎を偲ぶ会においても撮影・編集を行う。

#### [個人の部]

#### ハンドボール部 (顧問/佐藤壮一郎)

- 01C 草原智也、02B 久保宮大
- 日本代表U-19 スーパーチャレンジカップ 出場
- 第8回アジアJr選手権兼世界選手権アジア予選 出場

#### バレーボール部 (顧問/鹿島 孝之)

- 99M 西久保亮太、99E 小阪博之
- 第3回西日本大学バレーボール5学連男女対抗戦  
東海選抜レギュラー (99M 西久保)
- 東海学生春季リーグ戦 一部  
リベロ賞獲得 (99E 小阪)

#### 陸上競技部 (顧問/前馬 哲夫)

- 01J 大和立幸、01E 片桐雅樹
- 第68回東海学生陸上競技対抗選手権大会  
(1万m 01J大和5位・01E片桐6位)
- 第55回西日本学生選手権大会  
(1万m 01J大和・5千m 01E片桐)
- 第29回東海学生秋季選手権大会  
(1万m 01J大和3位・01E片桐4位)

#### レーシングカート部 (顧問/松浦 章裕)

- 99M 磯貝真典
- S L 瑞浪シリーズ R d 4 決勝 F P - 4 3位
- 第7回学生カート選手権 S S D 決勝 1位

#### ダンス部 (顧問/三品 善昭)

- 99D 宮田敬三、99A 原子和美
- 中部日本プロアマ級別ダンス競技福井大会  
アマチュアラテンアメリカC級サンバ 2位
- 中部日本プロアマ級別ダンス競技静岡大会  
アマチュアラテンアメリカC級バンドブレ 2位
- 中部日本プロアマ級別ダンス競技岐阜大会  
アマチュアスタンダードN級ワルツ 6位
- 中部日本プロアマ級別ダンス競技富山大会  
アマチュアスタンダードD級ワルツ 優勝

#### テコンドー研究会 (顧問/棚橋 秀行)

- 99M 廣瀬晴夫
- 第4回長野県テコンドー選手権大会  
マツノ(組手)マイク口級 優勝
- 第3回中部テコンドー選手権大会  
マツノ(組手)マイク口級2部 優勝

#### ボウリング研究会 (顧問/吉岡 義春)

- 00M 山崎吉範
- 日本大学選手権 2位
- ジャパンオープン 決勝進出者32名  
出場110人(プロ50人/一般60人)
- オールジャパンボウリングフェスタ 決勝進出者  
決勝進出者142名 出場520人(プロ140人/一般380人)



学生のマナー・モラル向上の宣言

大同工業大学は、  
学生のマナー・モラルの向上に  
全学的に取り組む

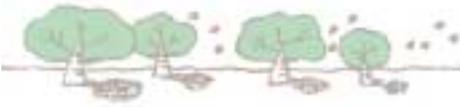
あたりまえのことを、  
あたりまえに

酒井陽一 学生部長

昨年12月、「大同工業大学は、学生のマナー・モラルの向上に全学的に取り組む」という宣言を、大学として行いました。その取り組みの一環として「環境美化の心得」、「施設利用の心得」、それら心得の違反に対する「処罰要項」を策定し、4月より施行いたしました。一読いただければおわかりになるよう、あたりまえのことを、あたりまえに守っていただく...ということです。

このような宣言、心得が必要なほど、大同工業大学・学生のマナー・モラル意識は特別に低いのか?という疑問をもった方も多いと思います。断じて、そうではありません。本学の学生諸君の意識は我国全体のこの世代の若者と同じである...つまり、「世間並み」であるとの認識です。「世間並み」ということですが、「世間並みによろしくない」とも言えるわけです。マナー・モラルの向上というテーマは、大学生に投げかけるようなものではないという意見もあります。そうでしょうか?その意識の低い若者が、社会に出て行く前に身につけ得るラストチャンスの方が、大学...大同工業大学であると確信します。大同工業大学の卒業生は、世間並みの若者より、他大学の卒業生より、ずっとマナー・モラル意識が高い。こうした評価は、本学の大きな特長になるはずで。

「マナーを守る」とは、  
気持ちの良い社会を作る  
第一歩なのです。  
まずは皆さんと私たち  
D I T の人間が  
率先して実行しましょう!



大和君 宇野君 南君 大森君 奥野君 片桐君

### 陸上部

# 名岐駅伝初出場 17位もシード権獲得し充実感

名岐駅伝競走大会(愛知、岐阜両陸上競技会、中日新聞社主催)は、1月26日、一般の部31チームが出場(高校の部42チーム)。午前11時大垣城ホールをスタートし名古屋市中区の中日新聞社前をゴール、6区間53kmで競われました。本学の陸上部は、初出場ながら最終区まで、タスキを継ぎとおして17位。来年度のシード権(愛知県出場チーム上位15チーム。本学陸上部は13位。)を獲得しました。

大垣城ホール前は、朝からどんよりとした曇り空、肌寒く今にも雪が舞ってきそうな天候。1区(12.4km)大和立幸君(01J)緊張気味でスタートラインに、午前11時、一斉にスタート。1キロ辺りまで、団子状態が続くが、トップのトヨタ自動車がペースを上げて縦長になる。順調な滑り出しを見せて上位をキープしていた大和君だが、6キロ辺りからややペースが落ち始める。後続の選手に抜かれた。残り2キロ、足の状態が重く息遣いが荒くなる。岐阜県庁が目に入ると最後の気力を絞ってスパート、17位。2区(5.8km)宇野彰紘君(01M)「監督に無理を言って地元を走らせてもらった。」かなり緊張している。声を掛けたが、緊張は解けないまま中継点へ。後続集団にいた宇野君、予想以上の上位順位に審判員に急がされてスタートラインに着くなり大和君からタスキを受ける。これでリラックスになれたか、ペースが上がる。1キロ手前で中央発條を抜く。ペースが速い。時計を見るが、そのままのペースを



中区三の丸交差点(片桐君)

守る。中間地点からややペースが落ち始める。残り1キロ、後続の愛工大が近づき併走する。残り500メートルで抜かれ必死に追いつくが、10メートル余の差がついて17位。3区(7.9km)南康次郎君(02M)一週間程前に痛めた左膝を時折り強く叩いている。「一人でも抜いて順位を上げたい。チクショウ!気が焦る。」痛みを感じるがためなのか、頻りに左膝を叩いていて中継点へ。左膝の爆弾を背負ったままタスキを受ける。前方の愛工大に迫り着く。ペースが速い。1.5キロ辺りで前馬監督から声が飛ぶ。時計を見てペースダウンする。愛工大、中央発條、庄内RT、トヨタSC、大同工大、館俱樂部と集団になって走る。中間点辺りから左膝を叩きだした。痛みが出てきたのか、一向に叩くの止めない。ペースが落ちて館俱樂部に抜かれる。痛々しい、残り僅か「ガンバレ」。中継点まで100メートル。左足で地面を蹴る感覚が全く無くなったのか、バランスを崩しながら18位。4区(9.8km)大森弘之君(00M)勝



2区中継点(大和君から宇野君へ)

負どころとあって準エース級が揃っているせい、かなり緊張してのスタート。ややペースが遅い。2キロ辺りで守山自衛隊に抜かれるが、離されないで後ろにつく。6キロ辺りでペースを上げて前に出るが、抜き返される。8キロ地点で再度抜く、残り1キロ、差を広げようとペースを上げるが残り僅かで再度抜かれる。5区の中継点では、トップとの差が10分離れると繰り上げスタート。刻々10分に迫る。5区(6.2km)やや緊張気味の奥野拓君(02C)ら18位以下のチームは、一斉にスタートラインへ、審判員の時計が気になる。デッドヒートを展開している大森君らを見て、審判員が「あの二人の通過後に一斉スタートにする」。守山自衛隊に続いて、19位。大森君から間一髪にタスキを受けてスタート。背後は、一斉スタートの集団が迫る。ペースを上げ、300メートル辺りで守山自衛隊、館俱樂部と抜く。体調が良いのであるう中間点過ぎまでハイペースが続く。残り1キロ辺りでペースが落ちるが17位と大健闘。6区(10.9km)片桐雅樹君(01E)予定通りのペース配分。4キロ辺りで守山自衛隊に抜かれる。ここは長丁場、ペースを守る。5キロ地点でペースを上げることも無く三菱自動車を抜く。残り1キロの登り坂、スパートをかけて前方の守山自衛隊を追うが、僅か20メートル余およぼす17位でフィニッシュ。前馬監督「目標どおりシード権が獲得でき満足。」補欠選手もいない6名全員が走り抜いた充実感を胸に、次回の活躍を誓い合っていました。

- |          |            |
|----------|------------|
| 1位 アラコ   | 2位 トヨタ自動車  |
| 3位 八千代工業 | 4位 愛知製鋼    |
| 9位 名古屋大学 | 10位 愛知工業大学 |
| 11位 中京大学 | 17位 大同工大   |
| 22位 名城大学 | 24位 愛知教育大学 |
| 29位 愛知大学 | 31位 岐阜大学   |

### 2 / 23 犬山ハーフマラソン ハーフマラソン

- |                |           |
|----------------|-----------|
| 01 E 片桐雅樹      | 1時間11分49秒 |
| 00 M 大森弘之      | 1時間12分28秒 |
| 01 J 大和立幸      | 1時間13分39秒 |
| 10km 02 C 奥野 拓 | 32分59秒    |

### レーシングカート部

2 / 22 ~ 23 S L レインボーカップ  
シリーズ第1戦

### 田中君、公式練習から決勝ヒート までパーフェクト達成!

- 02 M 榊原康人 FP・3 4位
- 02 M 田中康裕 TIA 1位

3 / 7 ~ 9 鈴鹿選手権第2戦

- 01 M 伊藤邦彦 FP・3 3位
- 02 M 榊原康人 FP・3 17位

### アーチェリー部

1 / 12 第23回中日オープン  
インドアアーチェリー大会

- 02 B 浦瀧啓太 青年男子B 70位
- 02 B 平岡慶一 青年男子B 71位

### 剣道部

1 / 18 中部日本理工系大学高専剣道大会  
団体戦

大同工大 0-4 1引分 名古屋工業大学

大同工大 0-5 鈴鹿工業高等専門学校 A  
3 / 2 第41回東海私立大学剣道選手権

- 個人戦 01 E 大橋健一 2回戦
- 01 D 三島史寛 2回戦

### スキー部

1 / 6 ~ 11 中部日本学生スキー選手権大会  
00 D 宮田 匠 GS 10位 SL 22位 SG 14位  
01 E 熊崎宏治 GS 21位 SL 18位 SG 23位  
02 B 羽場崇博 GS 16位 SLDF SG 19位

## 学習支援センター誕生

学習支援センター準備室が、1年間の実験的調査を経て、4月1日に「学習支援センター」として開設しました。就任早々の瀬川重男学習支援センター長から目的、抱負等について寄稿して頂きました。



瀬川重男学習支援センター長

1999年11月の答申「教育体制の改革について」において、学生の学習をサポート・エンカレッジするセンターの設置が提言されてすでに3年余が過ぎてしまった。その間、2001年度からキャップ制が導入され、学習支援のための体制の確立がそれまで以上に待ち望まれていた。いろいろないきさつがあって大変遅くなってしまったが、昨年4月からの（通称）アップル・ケアセンターによる調査実験を経て、ようやく本年4月に「学習支援センター」が発足することになった。

前回の指導要領改定以後顕著になった大学入学者の学力低下および高校教育の多様化により生じている大学教育とのアーティキュレーションの乖離は、多くの大学教員特に基礎科目担当教員にとって深刻な問題となっている。しかしながら、このような状況の最大の被害者はむしろ学生の方であろう。教員側の教育困難を裏返して見れば、学生にとって学習困難が生じているということである。本センターの使命は、このような学生に救いの手を差し伸べ彼らの学習困難をできるかぎり緩和してあげることである。また、それが教育困難の緩和に繋がるであろう。

一般に学習困難の実情は学生ひとり一人によって少しずつ異なるものであり、その人に合った最良の具体的支援策を見つけ出すことは簡単なことではない。昨年からの試行があるとはいえ、まだまだ経験不足である。しかし、ことの重大さからしてのんびり構えている余裕はない。出来る限り早くより良い支援策を確立させたいとスタッフ一同は考えている。教職員各位のご支援ご指導をお願い致します。

## 第2回におい研究交流会



産学連携共同研究センター、生活環境分野/臭気評価・制御研究ラボラトリー(助教授光田恵ラボ長)は、昨年「第1回におい研究交流会」に引き続き、今年度も90余名の企業・大学等からの技術者・研究者を迎えて「第2回におい研究交流会」が2月18日(火)本館14階交流室で開催されました。(写真)

交流会は、岩間三郎産学連携共同研究センター長から「臭気評価・制御研究ラボの研究交流会は、産学連携共同研究センターのなかでも特に活発に行われており、今後ともサポートしていきたい。」との挨拶に始まり、松下冷機株式会社 菅宏明氏の司会により、最近のにおい問題として「高齢者施設の臭気の評価と対策」「厨房排気の臭気特性」光触媒による臭気対策として「光触媒による臭気物質の除去効果」の研究発表が。また、ポスターセッションでは「室内環境要素とにおいの複合影響」を取り上げ、においと様々な環境要素との複合影響について研究発表がありました。

「高齢者施設におけるおむつ交換時のにおいの拡散挙動に関する研究」では、おむつ交換時に瞬時に居室全体に臭気が拡がっていく様子をとらえ、発生源付近に脱臭機を設置することにより、発生する高濃度の臭気を抑えられることが明らかになったと発表されるなど、全テーマにわたって企業研究者らの活発な研究討論が行われました。

## 博士後期課程から2名博士誕生



公開講演会(加藤氏)

平成14年度博士後期課程の学位「博士(工学)」に2名の授与者が出ました。

加藤俊宏氏(大同特殊鋼株式会社研究開発本部)は、1998年4月本学工学研究科博士後期課程(材料・環境工学専攻)入学。2001年3月満了。

田仲圭氏は、1997年4月本学工学研究科博士後期課程(材料・環境工学専攻)入学。2000年3月満了。

両氏は、2003年2月10日博士論文審査による公開講演会を経て、2003年3月20日付で、課程学位「博士(工学)」を平成14年度学位記授与式にて澤岡学長から授与されました。

本学の課程学位の授与者は7名となりました。両氏の今後の活躍を祈ります。

加藤俊宏氏(坂貴指導教授)

論文題目「MOCVD法による化学物半導体多層膜反射鏡を有するAlGaAs系光デバイスの開発」

MOCVD法によるDBR構造を有する各種光デバイスの開発研究について論じたもの。

田仲 圭氏(岩間三郎指導教授)

論文題目「Flowing Gas Evaporation法によるナノ粒子の形成とその結晶学的特性に関する研究」

ナノ粒子の物理的製法として近年開発されたFGE法を用いて生成できるナノ粒子の特性に関する研究をまとめたもの。



学位記授与式(田仲氏)

## 富田高校生が体験学習



生徒の進路・適性に応じたコース制を導入している名古屋市立富田高等学校(中川区富田町大字榎津)の荒川成人、前澤由紀両先生の1年生指導生徒ら25名(男子生徒23名、女子生徒2名)が3月7日(金)情報教育センターに「体験学習」で訪れました。(写真)

当校は、生徒が社会に対する意識を高め、真剣に進路を考えるための教育活動の一環として、本学情報教育センター及び他機関などで実施され、今年で3年目を迎えた恒例の行事です。

生徒は、午前9時から12時まで、山田センター職員らから「自己紹介ホームページの作成」を研修。ディスプレイに自分の顔写真が写し出されると、思わず吹き出したり、恥ずかしさのあまり画面をスクロールさせる女子生徒の姿が見受けられるなど、生徒らは「ホームページの作成」に最後まで楽しく取り組んでいました。



## 私のなかの大同



電気電子工学科  
教授  
近藤 芳孝

縁とは不思議なものです。定年を大同工業大学で迎えるとは全く思ってもみなかったことです。思い起こせば、名古屋市南部の工業地帯に若い頃から縁があったのだという心あたりがあります。親戚に大同特殊鋼に勤める人がいたこと、田舎の隣人が戦時中に隣の三菱航空機製作所で零戦を作っていたこと、高校時代の親友が隣の東洋レーヨンに勤めていたこと、大学時代の友人が今は最新鋭のコンバインドサイクル発電所になった石炭火力の新名古屋火力発電所に勤務していたことなど思い浮かびます。

でも、大同工大に奉職するきっかけになったのはもっと他の理由があったはずで、第二次大戦で日本軍勢力の礎として頑張ってきた臨海工業地帯とはなんであるのか、多くの人々の情熱と汗と、そして尊い命を飲み込んだこの地はなんであるのか、そんな人々の思いと血が幾重にも染み込んだこの地が呼んだのかもしれないし、知りたくなかったのかも知れません。

今まで多くの先生にお世話になりましたが、とりわけお世話になった先生が私には二人あります。その先生方抜きで私の大同工大教員の経歴はあり得ません。細川辰三先生から紹介しますと、この先生は名古屋工業大学の電気情報工学科を定年になり、法政大学の教授を7年間お務めになり、現在75歳になられるが東京電機大学で非常勤講師と研究を66歳の私よりも精力的にやっておられます。この先生は、大学卒業直後に大同高校で短期間ですが教鞭をとっておられました。研究室での談話のなかに、この先生から大同の名前を度々聞いて、大同が頭に刷り込まれたのかも知れません。

もう一人は、故三好保憲先生です。先生は中日文化賞を受賞され、三好賞として本学学生の顕彰に名が残されている先生です。私は三

好研の修士の1回生です。先生が名工大定年後大同工大に来られたので、細川先生共々ご指導を仰ぎに今は高校に変わった大同キャンパスの一号館の研究室にしばしばお伺いしました。名工大時代から引き続いた集まりですが、放談会という集まりを年に4回ほど大同工大でも開いて国内の研究者の研究発表の場を設けられました。多士済々のメンバーが大同に来られました。学長になられた方々だけを記すご無礼をお許しいただいて、名工大時代なのか大同時代なのか記憶が曖昧ですが、北は北大の田頭博昭教授(室蘭工科大学長) 東京電機大学の金田輝男教授(東京電機大学短期大学学長) 名古屋大学の堀井憲爾教授(本学学長) 南は九州大学の赤崎正則教授(福岡工業大学)が来られました。この会のお世話は、電気電子工学科の関谷教授(当時講師)がやって下さいました。この三好先生をお願いして、大同工大勤務の道をつけて頂きました。

そんな経緯で中京工業地帯の一角に位置する大同工業大学で学生教育に携わることができたことを私は誇りに思っています。工業地帯の中にあつてこそ工業大学であり、この地の干拓にはじまり、本学の周辺にある企業がいかに日本の歴史にかかわり、日本を代表しているかを知ることは、日本の将来を知ることにつながります。多分、このような工学史的魅力が、私を大同工大に結びつけたと思っています。山や森を切り開いて作った緑の多い郊外型のキャンパスには、先人の血と汗の痕跡が見えませんが、大学の周辺の町名にも自ずと歴史が見られます。滝春、白水、星崎のなんとも美しい町名があり、これまた中国の故事来歴古語辞典を開いているような道德、大同の町名があり、豊田とか大江の町名もその由来は興味深いものがあります。

万葉集の時代には、国道1号線の辺りまで伊勢湾が入り込んで干潟を作っていたらしいので、南区、港区は海の中にあつました。1700年頃に天白川の河口にあつて星崎から呼続辺りにかけて遠浅の海に葦などを植えて土の流失を防いで陸地を広げて行ったとされています。そのような苦労がこの地にはありました。

滝春町の字の並びから私は、滝があつて春にちなんだ万葉集の「いは石ばしる たるみ垂水の上の さわらび蕨の も萌え出づる春になりけるかも」を思い浮かべました。おらから、新入学生を迎える春の歌です。しかしこの町名は、この辺りの新田を買い取った豪商の滝氏と春日井氏の頭文字をとって名付けられたそうです。

白水町の町名は、この地を天白川をはじめ、きれいな用水や小川が流れていたのだから

れたそうです。

星崎町の由来は伝説の世界にはいり、元久2年のさる日に、天地俄に震動し、海上鳴り渡り、明星が空より落ちてきて雷鳴のように光り輝いた。里人が不思議に思つて船を出したがその形跡がなかった。その時から、鳴海の里と書き、明星が下つたゆえにこの地を星崎と云う、地蔵縁起に記されているそうです。

道德の地名は、尾張藩が「道義をもって徳を施す」の政策によって、農民に替地を与えたが、この新田を1812年に道德新田と呼んだことに由来しているそうです。

さて、我が大同町ですが、大同町は昭和18年にはありませんでした。この話にはいる前に、大同製鋼の大同の由来を調べる必要があります。それには福沢桃介氏を抜いては語れません。電気は大量にあるが販路をもたない木曾電気興業、九頭竜川の水力を開発して関西への供給を目指していた日本水力、送電線だけの大阪送電の3社が大正9年の恐慌を契機に大正9年10月に合併して、3社の大同団結をはかる意味をこめて社名を大同電力(株)としております。翌10年には木曾電気興業の製鉄部門が独立して大同製鋼(株)となっています。したがって、まず大同団結の大同電力ができ、電気製鋼でそれを使うので大同の名を冠した大同製鋼ができた、ずいぶんと簡単に大同製鋼の生い立ちをまとめてみました。実際は弱肉強食の実業界ですから複雑な紆余曲折があつたようですが大筋はこんなところですよ。いずれも、福沢桃介氏が生みの親であります。さて、これからは、本学の元機械工学科教授の下出先生の実体験に基づく内容です。現在の大同町駅は、もとは駅名が「北柴田駅」であつたのが「大同前」にまずかわつたそうです。軍が諜報上の理由から、重要な会社名が表に出ることを避けさせようとして、昭和19年のある日に「大同前」の上に張り紙があり、駅名が「大同町」にかわつたそうです。名古屋市はそれをそのまま引き継いで、昭和22年に大同町が成立したようです。

町の謂われもまだ途中です。もう紙数が尽きました。我が国の戦前戦後を通じて我が国の在りように深く係わつて来た近隣の企業の歴史が尽きぬ興味の対象ですが触れることすらできませんでした。かいま触れますと、福沢桃介氏が生みの親である大同特殊鋼、中部電力、東亜合成、矢作製鉄のうち、矢作製鉄は平成10年9月に破産しました。旧矢作製鉄は滝春キャンパスの西に在ります。赤さびた煙突やうらが見える工場の廃墟です。万葉の時代から見ればこのことも一瞬のことかも知れません。かかわつた人々のかけがえのない人生を刻み込んでこの地区の歴史となりました。

## 新刊著書を語る

### 騒音と日常生活

- 社会調査データの管理  
・解析・活用法 -

B5判318ページ

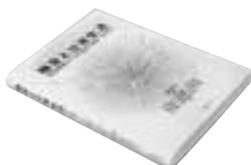
著者 三品善昭、大石弥幸  
(情報学科) 池

出版社 技報堂出版

発行日 2003.2.10



三品善昭教授 大石弥幸教授



著者らは、名古屋地域を中心に収集、蓄積されたフィールドデータをもとに各種の集計や分析を行ってきた。本書ではそれらを読みやすく、かつ一部補充して、得られた知見を取り纏めたものである。併せて調査の方法や内容、データ管理システムの概要およびデータの利用方法を説明し、調査データとともにCDにより提供できるよう配慮している。日常生活や社会生活における音の問題を、調査データの管理方法をも含め探求したものである。

内容的に3つの部分から構成されている。第1章から第3章は、初めて音(騒音)について学ぼうとする人のための導入部。第4章から第9章では、日常生活における音の暴露をはじめ、住居の音環境、近隣騒音、沿道の音環境、鉄道沿線の音環境など騒音に関する具体的なフィールド調査の概要と結果について紹介。第10章および第11章はデータの利用ガイドと活用法に関する部分である。

クリーン  
キャンパス  
いつもクリーンな環境  
私たち  
一人ひとりの手で

## キャンパス カレンダー

### 4 月

- 17日(木) 履修申請確認表配布(18日まで)  
履修変更申請書受付開始  
(土日休日除く5月9日まで)
- 19日(土) 集中講義・補講
- 26日(土) 集中講義・補講
- 27日(日) 後援会定期総会
- 29日(火) 新入生歓迎会(みどりの日)

### 5 月

- 6日(火) プレ就職ガイダンス・  
3年次生(13日まで)
- 9日(金) 履修変更申請書受付締切日
- 10日(土) 開学記念日
- 17日(土) 集中講義・補講
- 18日(日) 大学祭「仮装行列」
- 22日(木) 大学祭「前夜祭」(6・7限休講)
- 23日(金) 大学祭「本祭」(休講日)
- 24日(土) 大学祭「本祭」
- 25日(日) 大学祭「本祭・後夜祭」
- 31日(土) 集中講義・補講

### 6 月

- 7日(土) 集中講義・補講
- 14日(土) クラブ対抗ボーリング大会  
・集中講義・補講
- 18日(水) 前期学生代表者会議
- 21日(土) 集中講義・補講
- 23日(月) 第1回就職ガイダンス(30日まで)
- 28日(土) 集中講義・補講

### 7 月

- 5日(土) 集中講義・補講
- 10日(木) (1～5限)休講
- 12日(土) 集中講義・補講
- 14日(月) 第1回就職常識試験(16日まで)
- 16日(水) 集中講義・補講
- 17日(木) 集中講義・補講
- 18日(金) 土曜日の授業・集中講義・補講
- 19日(土) 集中講義・補講
- 22日(火) 前期定期試験期間  
(土日除く8月4日まで)

## 人事室

**退職** 平成15.3.31付

大学

**専任教育職員** 福原意玄(教養部外国語教室教授) 加瀬博己(教養部物理学教室教授) 佐橋稔雄(情報学部情報学科教授) 糸見和信(工学部情報機械システム工学教授) 近藤芳孝(工学部電気電子工学教授) 藤井省三(工学部情報機械システム

工学部教授) 藤田順治(情報学部情報学科教授)

橋本博美(教養部外国語教室助教授)

**嘱託職員** 瀬尾實(大学事務部学生室) 山口克明(工学部電気電子工学) 吉富孝(工学部電気電子工学) 間瀬清(情報学部情報学科) H15.2.28付 浅利直秀(創造製作センター) 児島武雄(大学事務部学務室白水事務室) 大林重夫(大学事務部図書館事務室)

**臨時補助員** 市川俊成(工学部機械工学科)

池田充(工学部情報機械システム工学科)

法人本部

**専任事務職員** 田中諭(管財部管財部長)

武田洋二(総務部総務部長兼経営企画本部副本部長)

**嘱託職員** 関茂夫(総務部庶務室)

**就任** 平成15.4.1付

学長 / 澤岡昭: 工学部長兼情報学部長併任 常務理事 / 小野二郎: 法人本部長兼経営企画本部管理兼大同工業大学学長付兼大同工業大学大同高等学校校長付兼法人本部総務部長

**採用** 平成15.4.1付

大学

**専任教育職員** 佐藤義久: 工学部電気電子工学教授 本田隆司: 情報学部情報学科教授 山本武信: 情報学部情報学科教授 尾形和哉: 工学部情報機械システム工学部助教授 横山弥生: 情報学部情報学科助教授 斉田浩見: 教養部物理学教室講師 梅田礼子: 教養部外国語教室講師 松井豊次: 教養部外国語教室講師 近藤芳孝: 工学部電気電子工学部特任教員(任期: H15.4.1～H16.3.31)

**専任事務職員** 大脇通保: 大学事務部就職指導室主席部員(H15.2.1) 藤壇照実: 法人本部通信・情報システム室主任部員兼大学事務部情報教育センター事務室主任部員(H15.3.1) 川戸和英: 社会交流エクステンションセンター副センター長

**嘱託職員** 橋村秀明: 工学部電気電子工学

吉原慶一: 工学部電気電子工学 稲生忠夫: 情報学部情報学科 木村章一: 情報学部情報学科 渡辺秀樹: 情報学部情報学科 松岡肇生: 創造製作センター 西中川保: 大学事務部学務室白水事務室 福岡盛隆: 大学事務部学生室

**臨時補助員** 加藤邦昌: 工学部機械工学科

松井秀徳: 工学部情報機械システム工学科

法人本部

**専任事務職員** 都築基: 総務部人事室

**嘱託職員** 石原廣: 総務部庶務室

**昇任** 平成15.4.1付

大学

**専任教育職員** 高藤新三郎: 工学部機械工学科教授 松浦章裕: 工学部情報機械システム工学部教授 田中裕己: 教養部教職教室教授 市川武久: 工学部機械工学科助教授 井上孝司: 工学部機械工学科助教授 池田洋一: 工学部情報機械システム工学部助教授

**称号授与** 平成15.4.1付

**名誉教授** 福原意玄 加瀬博己 佐橋稔雄 藤田順治 藤井省三

**役職就任** (任期: H15.4.1～H15.9.30)

大学

太田幸一: 学長付(任期: H15.4.1～H16.3.31) 和田均: 大学院研究科長 坂貴: 大学院副研究科長兼大学院工学研究科博士後期課程材料・環境工学専攻専攻長 瀬川重男: 学習支援センター長 今井健二: 学習支援センター副センター長

**客員教授** (任期: H15.4.1～H16.3.31)

太田幸一 木村敬 草加勝司 中井三留 藤原俊隆

**大学院客員教授** (任期: H15.4.1～H20.3.31)

飯田康夫 池田泰 五十川幸宏 入山恭彦 岡部道生 中村守 務川進 村上純一



## 大同工大大同高校から 新キャンパスが竣工

大同学園創立60周年記念事業としての高校新キャンパス建設がこのほど竣工しました。3月18日、高校新キャンパス中庭(旧大学大同校舎)において、田中理事長、高橋校長、愛知県県民生活部文化学事課長矢野秀夫氏、愛知県私学協会会長大谷和雄氏をはじめ281名の来賓、教職員、生徒代表者の列席のもと厳粛に竣工式が執り行われました。

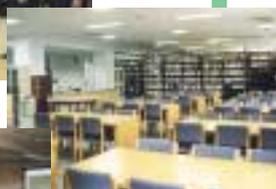
新キャンパスは、「本館」、「南館」、「東館」、「修技館」、「工作センター」の5棟からなり、「マルチメディア教室」、「CGデザイン室」、「作法室」、「ものづくり工房」など特殊教室をはじめ職員室に設置されている全教員のパソコンはLANで結ばれ学校全体が情報化されました。



竣工式



マルチメディア教室



図書室



作法室

## 編集後記

社会交流センターが、02年12月末をもって発展的解消しました。「工大キャンパス」の発行は、新装になった「社会交流エクステンションセンター」が引き継ぐことになりました。期待して下さい。

大同工業大学ホームページ  
<http://www.daido-it.ac.jp/>